

総合評価

標準的な業務を実施している

総括

地域包括支援センターとして求められる業務を実施できている。
 特に、●●●…を行っている点が評価できる。また、◎◎◎…を行っている点も評価できる。
 今後は、△△△…に期待する。

1. 地域包括支援センター業務評価について

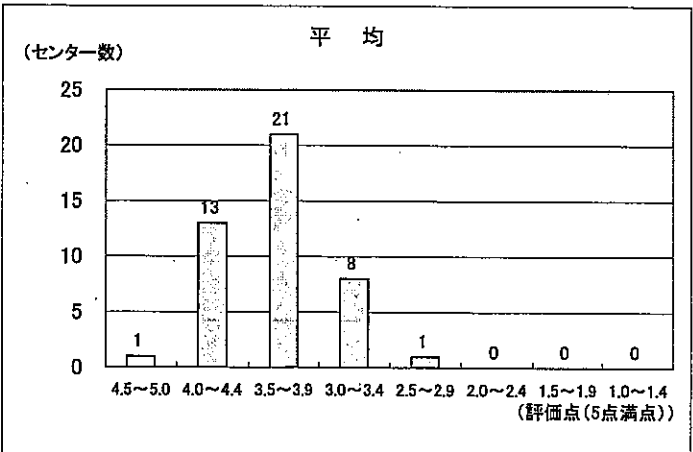
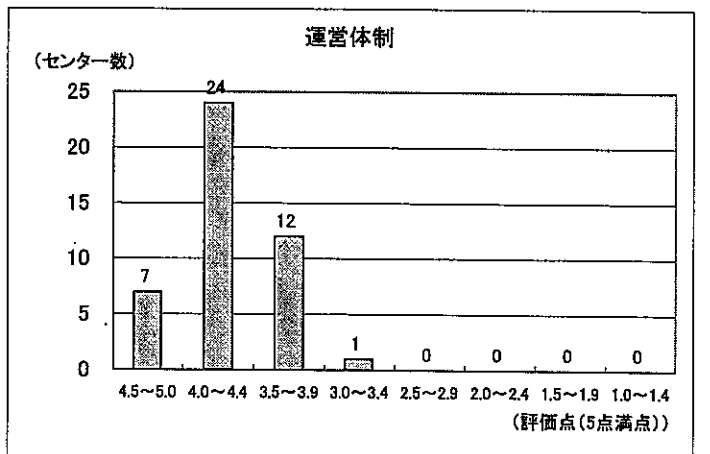
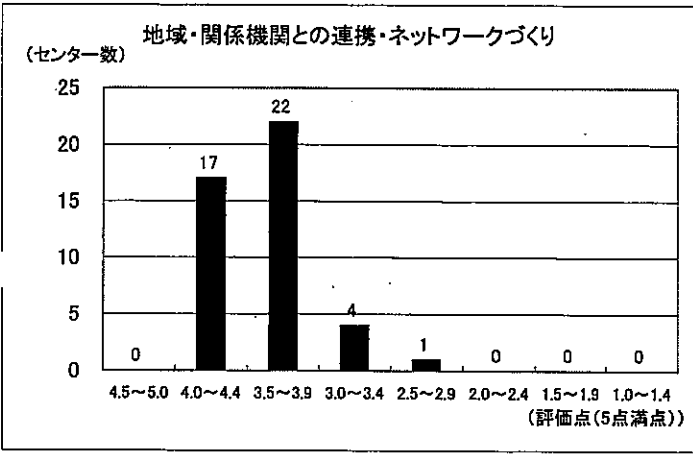
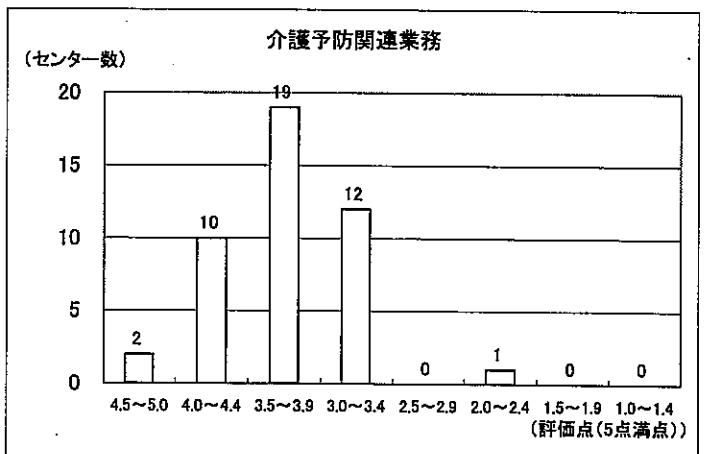
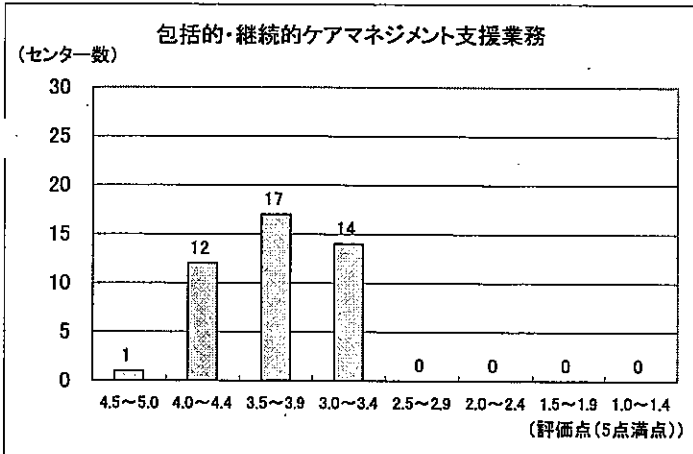
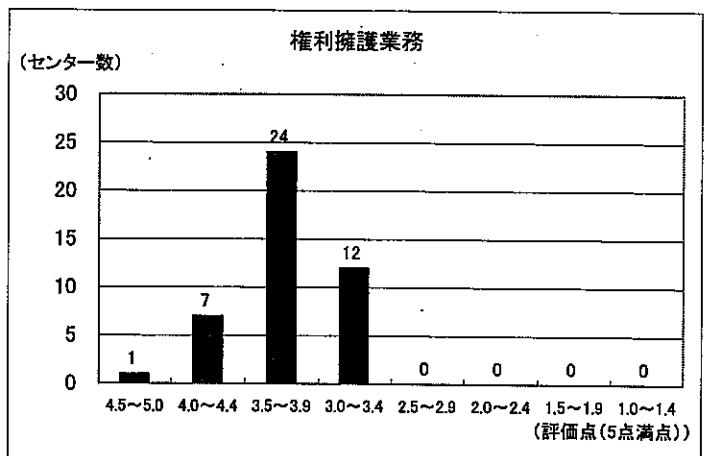
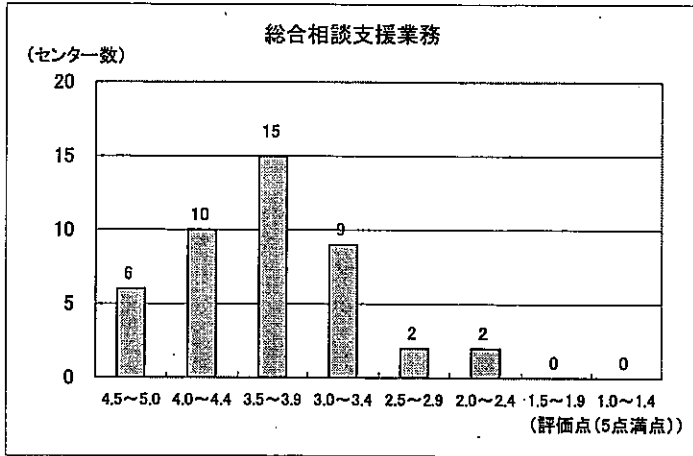
総合相談支援業務	業務の評価	市が求める水準を満たし、かつ、特に優れた業務を実施している
		【積極的あるいは独自の効率的・効果的な取組と評価できる事項】 ・●●●…に取り組んでいる。 ・□□□…している。
権利擁護業務	業務の評価	市が求める水準を満たした業務を実施している
		【積極的あるいは独自の効率的・効果的な取組と評価できる事項】 ・●●●…に取り組んでいる。 【今後の取り組みに期待する事項】 ・□□□…の取組に期待する。

包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	業務の評価	市が求める業務水準に達しておらず、工夫・改善を要する 【今後の取り組みに期待する事項】 -□□□……の取組に期待する。 【工夫・改善が望まれる事項】 -●●●……が必要である(をしていただきたい)。
介護予防関連業務	業務の評価	市が求める水準を満たした業務を実施している 【積極的あるいは独自の効率的・効果的な取組と評価できる事項】 -●●●……に取り組んでいる。 【今後の取り組みに期待する事項】 -□□□……の取組に期待する。
地域・関係機関との連携・ネットワークづくり	業務の評価	市が求める水準を満たした業務を実施している 【積極的あるいは独自の効率的・効果的な取組と評価できる事項】 -●●●……に取り組んでいる。 【今後の取り組みに期待する事項】 -□□□……の取組に期待する。
運営体制	業務の評価	市が求める水準を満たし、かつ、特に優れた業務を実施している 【積極的あるいは独自の効率的・効果的な取組と評価できる事項】 -●●●……に取り組んでいる。 -□□□……している。

2 地域包括支援センター業務監査について

指摘事項は特になし。

平成22年度地域包括支援センター事業評価 評価点分布



地域包括支援センターにおける取組事例集

平成22年度地域包括支援センター事業評価現地調査において把握したセンター業務におけるさまざまな取組の一部を下記のとおりまとめました。

今後の事業実施に際しての参考となるよう、各センターへ紹介してまいります。

1 総合相談支援業務
センターが把握している支援者情報をデータ化し、緊急性を伴う相談に迅速に対応したり、継続支援者の支援が途切れないような工夫を行っているとともに、民生委員の把握している支援者の情報の共有も行っており、情報の更新等にも役立っている。
金融機関、スーパー、コンビニ、商店、市民センター、老人福祉センターや介護保険関係機関等、従来働きかけを行ってきた機関との関係を維持するとともに、地域ごとの特徴に応じた会合等に参加することにより、効果的に地域情報収集・相談・情報発信を行える関係を構築している。
社会学級や農協婦人部など、地域性に応じた様々な団体との関係づくりを行い、地域の高齢者に関する情報収集を行っている。
マンションが多い等の地域の特徴を踏まえ、管理人に「気になる高齢者に気づく視点」と題した独自の書類を配布し、高齢入居者についての情報収集を行っているとともに、計画的な広報活動を行っている。
地域の支援者の研修会にて、地域での良い支援ができた事例を提示しており、今後の支援のあり方について具体的に考えていただく機会を提供している。
民生委員の担当エリア毎に独居高齢者等を支援の必要度に応じて色別し、要援護者リストとマップを見やすく作成している。また、指定避難所の記載もされているため、マップ部分は要援護者への啓発にも活用している。
「緊急連絡票」「非常用持ち出しリスト」を作成し、多くの高齢者が活用できるように、個別訪問時や圏域の高齢者全体に広く防災対策の周知を行っている。
福祉用具の展示を行うだけでなく、地域開催の研修会等に持参し、福祉用具の活用法について情報提供を行っている。

2 権利擁護業務
昨年度からの認知症サポーター養成講座の取組に加えて、養成講座を修了した方々を対象に高齢者虐待防止の観点からスキルアップ研修を企画し、地域での見守り・支援に取り組めるようなネットワーク強化を行っている。
高齢者虐待防止ネットワーク構築事業の取組として、アンケートの結果より見守りの目が育っていることを確認し、参加者と共有したり、介護者が孤立すること防ぐために介護者同士の交流会を実施したりと更なるネットワーク構築に取り組んでいる。

平成 21 年度に取り組んだ「高齢者虐待防止ネットワーク構築事業」に引き続き、今年度も小地域での普及啓発活動を実施。さらに地域支援団体等に対して、虐待防止の観点から対象者とのコミュニケーションを振り返るなどの内容を盛り込んだ研修会を実施するなど、より身近なものとして考えられるような取り組みを行っている。

過去に相談があったケースなど、ハイリスク者に対し、定期的にモニタリングを行い、情報提供をすることで、対象者自身の気づきを促せるよう働きかけを行っている。

消費者被害が多い地域の現状を踏まえ、寸劇を実演し啓発を行ったり、地域関係者の集まりではロールプレイを実践し、被害を身近なものとして捉えてもらい、自分たちの対応について考えさせる機会としている。

地域の高齢者や関係機関に対して、悪質業者のセールストーク等をクイズ形式にするなど、消費者被害について分かりやすく、また、楽しみながら学べるように普及啓発に工夫を凝らしている。

3 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

いつ、どの職種が在籍しているかの待機当番表を作成して居宅介護支援事業所へ情報提供する等、介護支援専門員が相談しやすいような環境づくりを行い、実際の相談につながっている。

地区のサポートネットワーク会議にて、介護支援専門員と民生委員が顔の見える関係を築き、スムーズな連携につながるような機会を設けている。

日頃の関わりの中から、地域の介護支援専門員の個性を捉え、必要に応じて利用者との向き合い方、関係の取り方といった相談にも応じている。また、地域のインフォーマルサービスに関して、ケアプランに反映できるよう情報提供を行っている。

認知症とうつの相談が増加している現状を踏まえて、介護支援専門員を対象に研修会を開催している。また、開催にあたり、ケース支援だけではなく、介護支援専門員や家族等の支援者の精神的ケアを視野に入れて取り組んでいる。

区内のセンターと合同で介護支援専門員にアンケートによるニーズ把握を行い、区内センター、隣接センター、センター単独と目的を分けた研修を計画的かつ積極的に開催し、ネットワークの構築を図っている。

区全体で介護支援専門員に対する研修会を実施するとともに、月一回隣接センターと合同で、自立支援に向けたケアプラン作成を介護支援専門員に意識付けるという方向性を持ち、事例検討会を行っている。

4 介護予防関連業務

地域で集まる場所が少ない圏域の課題に対応するため、デイサービス・マンション自治会・民生委員と協力し、サロンの立ち上げに取り組んでいる。

自主的に運営できるサロンを立ち上げ、将来的には、地域関係者のサポートをもらいながら、特定高齢者を含む閉じこもりがちな高齢者が参加しやすい場づくりを行っている。

<p>圏域内の自主運動グループが実行委員となる体制で健康教室フェスティバルを開催することで、地域住民に対して介護予防を啓発する機会を設けているとともに、サポーターのモチベーションを高めている。</p>
<p>介護予防教室へ継続的に通う方を把握し、サポーター養成講座を受ける前に自主グループの見学や交流に参加した上で自主グループの立ち上げを行う等の支援をしている。</p>
<p>自主グループ参加に至らなかったサポーターに介護予防教室で体操を披露してもらう機会を設けるなど、サポーターのモチベーションを維持させる支援を行っている。</p>
<p>区境で地域活動が停滞しがちな地域で介護予防教室を開催したことで地域の活性化につながり、停滞していた高齢者のつながりを促進している。</p>
<p>自主グループ等の地域資源がない地区において、積極的に働きかけ介護予防教室を開催し、自主グループのリーダーとなる人材を発掘した。</p>
<p>男性が参加できる活動が少ないという地域の課題にあわせて、介護予防教室の一環として、男性対象の料理教室を開催している。</p>
<p>徘徊で問題のあった認知症の方がいる地域で、見守りの意識を深めるために認知症をテーマに介護予防教室を実施するなど、地域課題への対応した教室を開催している。</p>
<p>5 地域・関係機関との連携・ネットワークづくり</p>
<p>小学校の地域共生科への参加を通じて、介護予防やセンターのPRを広い世代へPRを行っている。</p>
<p>活動拠点づくり事業に関わったりNPOの運営委員会、大学など、地域に存在するさまざまな団体と連携し、地域づくりやボランティアなどの社会資源の創設に向けて取り組んでいる。</p>
<p>担当圏域包括ケア会議について、事前に議案を提出してもらうなど、会議出席者が主体性を持って会議に参加できるよう工夫するとともに、センターとしての考えも議題に反映させるよう工夫している。</p>
<p>6 運営体制</p>
<p>職員が担当している利用者についての進捗状況を壁面に張り出し、随時更新することで、最新の情報を共有しながら連携して個別支援ができています。</p>
<p>個別支援のアセスメントに役立てるために相談者の状態把握のためのチェックリストを使用し、業務の効率性の向上につなげている。</p>
<p>「事業評価会議」を年2回行うこととし、業務の進捗状況や達成度の確認を全職員で行うなど、定期的な業務評価を実施できている。</p>
<p>“地域活動参加カレンダー”を活用し、どのような地域団体に、いつ介護予防の普及啓発を行うかという計画をセンター職員で情報共有している。</p>

地域包括支援センターからの意見聴取

地域包括支援センター事業評価現地調査時に、本市の高齢者福祉施策に係る課題等について、センター職員と意見交換を行った。センターから示された意見のうち主なものについて、以下にまとめた。

<主な意見>

- ・委託業務と指定介護予防支援業務の、いわゆる 2 枚看板について(業務量として厳しい/指定介護予防支援業務をセンターの業務から外してほしい/センターの業務範囲が広すぎる/どこに力を入れればよいのか/要介護と要支援との介護報酬の差を改善してほしい) (10 か所)
- ・区役所の対応について(介護保険係との連携が不十分/一緒に現場に出向くことが少なく、情報共有不足や対応の遅さが見られる/特定の担当職員が不在だと業務が止まってしまう/区役所内で上司の判断を仰ぐのに時間を要している/成年後見市長申立に係る相談を持ち込んでもフィードバックがないことがある/区ごとの対応を均一化してほしい/センターは 24 時間体制だが、区役所は肝心なときに連絡が取れないことがある) (8 か所)
- ・委託料及び人員体制について(委託料増額が必要/人員を増やしてほしい/委託料上乘せが難しいならば業務を減らしてほしい/地域特性に配慮した委託料や人員配置基準を求める) (6 か所)
- ・二次予防事業について(特定高齢者ケアプランはどうなるのか/問題意識のある人は目標設定などプラン作成は不要と考える/そもそも作成不要/早く方向性を教えてほしい/チェックリストの結果だけで元気応援教室等につなぐのは危険で、医療のチェックは必要) (5 か所)
- ・元気応援教室について(事業所がカバーする送迎エリアに偏りがあるため、利便性に問題がある地域が存在/通年で対応できないか/教室終了後のフォローに悩む) (5 か所)
- ・認知症施策について(専門医のリストがあるとよい/若い世代への PR も地区によっては逆効果/専門医につなぐまで時間がかかる/認知症疾患医療センターの機能を充実されるべき/行政の上に立つ人がキャラバンメイトになるべき) (5 か所)
- ・緊急通報システムについて(回線の種類が複雑なので理解が大変/アナログ回線ではなく光通信方が使い勝手がよいと感じる/オプションの費用発生が利用者の負担になっている) (4 か所)
- ・食の自立支援サービスについて(要介護・要支援認定がないと使えず間口が狭いと感じる/経過措置の取扱を説明しづらい/空白地対策が必要) (4 か所)
- ・介護予防推進委員会について(具体的な提案/具体策が見えてこない) (3 か所)
- ・高齢者虐待について(マニュアルに行政の介入のタイミングを記載してほしい/様式の項目の重複が多いので見直しが必要/ワーキングを立ち上げてほしい) (3 か所)
- ・介護予防について(若い世代、働く世代からのアプローチが必要/効果検証が必要) (2 か所)

- ・特定高齢者施策について(費用対効果に疑問/対象者の管理が難しい) (2か所)
- ・高齢者生活援助サービスについて(対象を非課税のみと見直したことは疑問) (2か所)
- ・措置対応について(やむ措置や成年後見の市長申立などが増えている印象がある/基準が明確にならないか) (2か所)
- ・来年度の事業計画を立てる段階で、来年度の市の方針を教えてください(研修開催スケジュールを含めて) (2か所)
- ・研修について(地域に対応できる内容にして欲しい/研修数が多い) (2か所)
- ・個人情報の取扱について(市が所有する個人情報をセンターとどこまで共有できるかの線引きをしてほしい/個人情報を含む情報をもっと早く市から提供してほしい) (2か所)
- ・介護予防教室について、仙台市としてどういう方針でどこに向かっていくのか、センターが行うべき介護予防教室は何なのか、評価する必要がある。(1か所)
- ・仙台市との契約が単年度契約で行われていることに対しては、雇用形態として非常に不安定なものであり、2・3年の契約とすべき。(1か所)
- ・書類が多いので簡素化してほしい (1か所)
- ・医療との連携をやりやすいように医師会への働きかけをお願いしたい。(1か所)
- ・センターの業務の多さ、覚えなければならない業務量+オリジナリティが求められる。センターがやらなければならないことは何か、市がやること、区がやること、包括がやること、いくつかは絞ってはどうか。(1か所)